

特別展「幻の名窯 湖東焼 -彦根藩窯の盛衰-」展示作品リスト

◎…国指定重要文化財、□…県指定文化財、◇…市指定文化財

NO.	指定	作品名称	数量	制作者	制作年	所蔵者	備考
I “やきもの”の時代							
1 磁器生産の広まり							
1		有田焼 染付花唐草文水指	1口		江戸時代前期	大和文華館	
2		有田焼 色絵花鳥図大皿	1枚		江戸時代中期	個人	
3		有田焼 染付網目文大皿	1枚		江戸時代後期	東京国立博物館 (平野耕輔氏寄贈資料)	
4		有田焼 染付羊歯文大皿	1枚		江戸時代後期	東京国立博物館 (平野耕輔氏寄贈資料)	
2 湖東焼のはじまり～絹屋窯の誕生～							
5	◎	佐和山古城図	1舗		文政11年(1828)	当館(彦根藩井伊家文書)	
6		湖東焼 染付松に鶴図盃	2口		文政13年(1830)	個人	
7		湖東焼 染付芭蕉竹松図筆筒	1口		天保5年(1834)	当館(遠城和雄氏寄贈資料)	
II 藩窯湖東焼の展開							
1 藩窯のはじまり							
8	◇	井伊直亮画像	1幅	佐竹永海 画	江戸時代後期	清凉寺	
9	◎	御出留	2冊		天保元年(1830) 7月条、 弘化4年(1847) 2月10日条	当館(彦根藩井伊家文書)	
10		湖東焼 染付花唐草文釣燈籠	1基		江戸時代後期	滋賀県立琵琶湖文化館	
11		湖東焼 染付鯉桜図手桶形鉢	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
12		湖東焼 染付雲龍図耳付花生	1口		江戸時代後期	個人	
13		湖東焼 染付龍図入角皿	2枚		江戸時代後期	個人	
2 先進地の技術導入～瀬戸焼、九谷焼、京焼から湖東焼へ～							
14		窯道具片(湖東焼窯跡採集遺物)	一括		江戸時代後期 ～明治時代	当館	
瀬戸焼技術の導入							
15		瀬戸焼 染付祥瑞捻文四方猪口	5口	加藤民吉 作	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 (川崎音三氏寄贈資料)	
16		瀬戸焼 青磁硯	1面	加藤吉右衛門穎溪 作	文政3年(1820)	愛知県陶磁美術館	
17		瀬戸焼 染付四君子文二段重	1組	亀井半二 作	天保14年(1843)	愛知県陶磁美術館	
18		瀬戸焼 染付荒磯文茗碗	5口	川本半助(4代) 作	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 (鈴木克明氏寄贈資料)	前期(10/23～ 11/6)のみ展示
19		瀬戸焼 染付楼閣山水図四方皿	1枚	川本半助(5代・榊 吉) 作	江戸時代後期 ～明治時代初期	瀬戸蔵ミュージアム	後期(11/7～11 /23)のみ展示
20		瀬戸焼 磁胎蒔絵内染付松文蓋付碗	5合	川本半助(4代) 作	江戸時代後期	個人	
21		瀬戸焼 赤絵金彩唐草文茗碗	5口	亀井半二 作	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 (川崎音三氏寄贈資料)	
22		瀬戸焼 古染付写雲鶴文手桶形水指	1口	川本治兵衛(3代) 作	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館	
23		瀬戸焼 瑠璃釉貼付波鶴文鉢	1基	川本治兵衛(3代) 作	江戸時代後期	宮内庁 庭園課	
24		瀬戸焼 染付花鳥図風炉敷	1枚	川本治兵衛(3代) 作	江戸時代後期	瀬戸蔵ミュージアム	
25		湖東焼 瑠璃釉波千鳥図釣瓶形花生	2口		江戸時代後期	個人	
26		湖東焼 伝授書写	1巻		江戸時代後期 ～明治時代	個人	
九谷焼絵付技術の導入							
27		色絵芭蕉に太湖石図平鉢	1口		江戸時代前期	能美市九谷焼美術館	
28		再興九谷焼 色絵燕に小禽図平鉢	1口		江戸時代後期	能美市九谷焼美術館	
29		再興九谷焼 色絵紫陽花図四方大平鉢	1口		江戸時代後期	能美市九谷焼美術館	
30		再興九谷焼 赤絵金彩百老図大平鉢	1口		江戸時代後期 ～明治時代初期	能美市九谷焼美術館	
31		再興九谷焼 色絵寿福丸紋深鉢	1口		江戸時代後期	能美市九谷焼美術館	
32		再興九谷焼 色絵龍文瓢形瓶	1口		江戸時代後期	能美市九谷焼美術館	
33	◇	再興九谷焼 赤絵金彩龍鳳凰百老図深鉢	1口	斉田道開 作	江戸時代後期	能美市九谷焼美術館	
34		再興九谷焼 色絵花鳥図大平鉢	1口	九谷庄三 作	江戸時代後期 ～明治時代初期	能美市九谷焼美術館	
35		湖東焼 色絵雲鶴文蓋物	5合		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
36		湖東焼 色絵鳳凰文鉢	1口		江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	
37		湖東焼 色絵牡丹図鉢	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
38		湖東焼 赤絵金彩張道陵図鉢	1口	木崎卜什・赤水 合 作	江戸時代後期	個人	

NO.	指定	作品名称	数量	制作者	制作年	所蔵者	備考
39	湖東焼	赤絵金彩恵比寿大黒図酒盃	1口	幸齋 作	江戸時代後期	個人	
40	湖東焼	赤絵金彩人物図皿	2枚	幸齋 作	江戸時代後期	当館(個人寄贈資料)	
41	湖東焼	赤絵金彩唐人物図急須	1合	幸齋 作	江戸時代後期	埋木舎・大久保忠直氏	
42	湖東焼	赤絵金彩唐子図蓋物	5合	幸齋 作	江戸時代後期	個人	後期(11/7~11/23)のみ展示
43	洪草焼	赤絵金彩百老図鉢	1口	徳丸 作	江戸時代後期	芳国舎洪草製陶所	
京焼陶工の来彦							
44	湖南焼	染付赤絵金彩龍文馬上盃	1口	永楽保全 作	嘉永5年(1852)	滋賀県立陶芸の森	
45	湖南焼	染付龍文煙管	1管	永楽保全 作	江戸時代後期	京都国立博物館	
46	京焼	織部釉柏文蓋物	1合	清水六兵衛(3代) 作	江戸時代後期	京都国立博物館	
47	京焼	色絵金彩菱形獅子文香炉	1合	水越与三兵衛 作	安政2年(1855)	京都国立博物館	
48	京焼	染付祥瑞写文鉢	1口	水越与三兵衛 作	江戸時代後期	京都国立博物館	
49	京焼	赤絵金彩唐子遊図急須	1合	高橋道八(3代) 作	江戸時代後期 ~明治時代初頭	当館(個人寄贈資料)	
Ⅲ 湖東焼の精華							
1 御用窯の誇り~「湖東」ブランドの確立~							
50	湖東焼	染付牧童図大皿	1枚		江戸時代後期	個人	
51	湖東焼	染付釣舟形花生	1口		江戸時代後期	個人	
絵付師鳴鳳の「御用」							
52	湖東焼	赤絵金彩芦雁図水指	1合	鳴鳳 作	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	
53	湖東焼	赤絵金彩柳翡翠図建水	1口	鳴鳳 作	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	
54	湖東焼	赤絵金彩小禽図杓立	1口	鳴鳳 作	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	
55	湖東焼	赤絵金彩丸文散硯屏	1基	鳴鳳 作	江戸時代後期	個人	
56	湖東焼	赤絵金彩唐人物図煎茶碗	5口	鳴鳳 作	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	前期(10/23~11/6)のみ展示
57	湖東焼	赤絵金彩紗綾形繫燭台	1基	鳴鳳 作	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	後期(11/7~11/23)のみ展示
58	湖東焼	赤絵金彩雲龍牡丹唐草文合子	1合	鳴鳳 作	江戸時代後期	埋木舎・大久保忠直氏	
59	湖東焼	赤絵金彩波に龍図香炉	1合	鳴鳳 作	江戸時代後期	宮内庁三の丸尚蔵館	
60	湖東焼	赤絵金彩唐人物図茶心壺	1合	鳴鳳 作	嘉永元年(1848)	個人	
61	湖東焼	赤絵金彩人物図茶入	1口	鳴鳳 作	嘉永年間 (1848~55)	埋木舎・大久保忠直氏	
62	湖東焼	赤絵金彩寿字雲龍文鉢	1口	鳴鳳 作	江戸時代後期	埋木舎・大久保忠直氏	
63	湖東焼	赤絵金彩遊鶏図太鼓胴形蓋置	1箇	弥平 作	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	
64・65	湖東焼	赤絵金彩捻文向付	2種	弥平 作	江戸時代後期	当館 (井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	
多彩な装飾技法							
66	湖東焼	磁胎漆塗吸物碗	5合		江戸時代後期	個人	後期(11/7~11/23)のみ展示
67	湖東焼	色絵龍文十角皿	1枚		江戸時代後期	個人	
68	湖東焼	色絵花卉図鉢	1口	可水 作	江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
69	湖東焼	色絵瓔珞文平鉢	1口		江戸時代後期	個人	後期(11/7~11/23)のみ展示
70	湖東焼	色絵菊花図平鉢	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
71	湖東焼	染付唐人物図花生	1口		江戸時代後期	個人	
72	湖東焼	染付釉裏紅雲龍文耳付花生	1口		江戸時代後期	個人	
文人好みの意匠							
73	湖東焼	染付花卉図漢詩書付鉢	1口		江戸時代後期	個人	
74	湖東焼	染付花卉図花生	1口		江戸時代後期	延寿寺	前期(10/23~11/6)のみ展示
75	芦雁図		1幅	青根九江 画	江戸時代後期	個人	
76	花鳥図		1幅	青根九江 画	江戸時代後期	個人	
77	湖東焼	染付山水花鳥図六角植木鉢	1基		江戸時代後期	個人	
78	山水図		1幅	新野古拙 画	明治2年(1869)	当館(渋谷幸江氏寄贈資料)	
79	湖東焼	染付竹林七賢人図花生	1口		江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	前期(10/23~11/6)のみ展示
80	湖東焼	染付十六羅漢図水屋壺	1口		江戸時代後期	埋木舎・大久保忠直氏	後期(11/7~11/23)のみ展示

NO.	指定	作品名称	数量	制作者	制作年	所蔵者	備考
81		湖東焼 染付太湖石に牡丹図火鉢	1対		江戸時代後期	個人	
82		湖東焼 染付祥瑞写楼閣山水図茶碗	1口		江戸時代後期	個人	
83		湖東焼 染付松竹梅文鉢子	1合		江戸時代後期	個人	
84		湖東焼 赤絵金彩唐子遊図急須	1合	鳴鳳 作	江戸時代後期	個人	
85		湖東焼 染付銘花十友図急須	1合		江戸時代後期	個人	
86		湖東焼 染付菊図水注	1合		江戸時代後期	個人	
87		湖東焼 染付山水図木蓮透彫涼炉	1口		江戸時代後期	個人	
88		湖東焼 染付山水図桃透彫涼炉	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
井伊家13代直弼と「湖東」ブランド							
89	◇	井伊直弼画像	1幅	狩野永岳 画	江戸時代後期	清凉寺	
90	◎	井伊直弼書状 安東七郎右衛門貞信宛	1通	井伊直弼 筆	弘化3年(1846) 12月11日付	当館(彦根藩井伊家文書)	
91		湖東焼 色絵大根図茶碗	1口		江戸時代後期	個人	
92		湖東焼 色絵笹鼠図茶碗	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
93	◎	湖東焼注文覚	1通	井伊直弼 筆	安政6年(1859) 5月18日	当館(彦根藩井伊家文書)	
94		湖東焼 赤絵金彩羅漢雲鶴文茶碗	1口	幸齋 作	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	
95		井伊直弼書状 上田成判宛 赤絵金彩近江八景図盃洗下図添	1通	井伊直弼 筆	嘉永3年(1850) 7月26日	個人	
96		湖東焼 織部写夕顔図瓢形風炉	1基		江戸時代後期	個人	
2 藩窯の大改革 ～品質向上と効率化、そして量産～							
安政年間の改革							
97		湖東焼窯場彩色絵図	1舗		江戸時代末期 ～昭和時代前期	彦根市立図書館	
98		湖東焼窯場絵図 「御陶器場所地面并諸御建前御絵図」写	1舗		江戸時代末期 ～昭和時代前期	彦根市立図書館	
99		湖東焼 染付蓬露酒德利	3種		江戸時代後期	個人	
販路拡大 ～藩内外への流通～							
100		湖東焼 染付蝶文小鉢片 (新宿若葉三丁目遺跡出土品)	1片		江戸時代後期	新宿区教育委員会	
101		松原湊船年寄連署覚書	2点		江戸時代後期	当館(磯崎家文書)	
品質向上と効率化、そして量産							
102		湖東焼 青磁牡丹文耳付花生	1口		江戸時代後期	個人	
103		湖東焼 青磁龍青海波文杭形花生	1口		江戸時代後期	個人	
104		湖東焼 染付牧童図水指	1口		江戸時代後期	個人	
105		湖東焼 染付騎馬図煎茶碗	5口		江戸時代後期	当館(個人寄贈資料)	前期(10/23～ 11/6)のみ展示
106		湖東焼 染付雲龍文団扇形向付	20枚		江戸時代後期	当館(個人寄贈資料)	後期(11/7～11/ 23)のみ展示
107		湖東焼 染付鳳凰図蓋物	12合		江戸時代後期	当館(井伊庄平家伝来資料)	前期(10/23～ 11/6)のみ展示
108		湖東焼 染付花卉図向付	2種		江戸時代後期	当館(河本英典氏寄贈資料)	後期(11/7～11/ 23)のみ展示
民窯赤絵湖東焼 ～赤水、床山、自然齋、賢友～							
109		焼付絵窯元鑑札	1枚		安政3年(1856) 12月	個人	
110		焼付絵窯元株掟書	1枚		安政4年(1857)	個人	
111		湖東焼 赤絵金彩唐人物図急須	1合	赤水 作	江戸時代後期	個人	
112		湖東焼 赤絵金彩群仙図大皿	1枚	赤水 作	江戸時代後期	個人	
113		湖東焼 赤絵金彩麒麟文酒盃	1口	赤水 作	江戸時代後期	個人	
114		湖東焼 赤絵虎溪三笑文六角德利	1口	床山玉兎 作	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	
115		湖東焼 赤絵金彩赤壁図皿	5枚	床山玉兎 作	江戸時代後期	個人	
116		湖東焼 赤絵金彩唐人物図急須	1合	床山玉兎 作	江戸時代後期	個人	
117		自然齋像	1幅	中島安泰 画	文久3年(1863) 8月	個人	
118		白磁乳鉢(自然齋所用)	1口		江戸時代後期 ～明治時代初頭	個人	
119		印章(自然齋所用)	3種		江戸時代後期 ～明治時代初頭	個人	
120		湖東焼 赤絵金彩風鎮	3対	自然齋 作	江戸時代後期	個人	
121		湖東焼 色絵花卉図蓋置	1箇	自然齋 作	江戸時代後期	個人	

NO.	指定	作品名称	数量	制作者	制作年	所蔵者	備考
122		湖東焼 色絵花鳥図蓋置	1箇	自然齋 作	江戸時代後期	個人	
123		湖東焼 赤絵金彩四方形唐人物花鳥図火鉢	1口	自然齋 作	江戸時代後期	当館(河本英典氏寄贈資料)	
124		湖東焼 赤絵金彩山水図酒盃	1口	自然齋 作	江戸時代後期	個人	
125		湖東焼 色絵風景図楊枝立	1口	自然齋 作	江戸時代後期	個人	
126		湖東焼 赤絵金彩花卉図茶巾筒	1口	自然齋 作	江戸時代後期	当館(井伊家伝来資料)	
127		湖東焼 赤絵金彩松鷹図急須	1合	自然齋 作	明治5年(1872)3月	個人	
128		湖東焼 色絵人物図猪口	5口	自然齋 作	江戸時代後期	個人	
129		図案(自然齋所用)	1冊		江戸時代後期 ～明治時代初頭	個人	
130		図案(自然齋所用)	1冊		江戸時代後期 ～明治時代初頭	個人	
131		湖東焼 赤絵金彩人物図鉢	1口	賢友 作	江戸時代後期	個人	
132		湖東焼 赤絵金彩鳳凰文酒盃	1口	賢友 作	江戸時代後期	個人	
133		恵比寿・大黒図	1対	中島安泰 画	江戸時代後期 ～明治時代初頭	当館(高崎正之氏寄贈資料)	
3 陶製湖東焼 ～藩窯土焼窯と民窯土焼窯～							
134		湖東焼 灰釉蓮形鉢	1口		江戸時代後期	個人	
135		湖東焼 陶製掛花生	1口		江戸時代後期	滋賀県立陶芸の森	
136		湖東焼 褐釉壺	1口		江戸時代後期	個人	
137		湖東焼 鉄瓶形水注	1合		江戸時代後期	個人	
138		湖東焼 色絵竹に菊図茶碗	1口		江戸時代後期	個人	
139		湖東焼 褐釉伽藍石形香合	1合		江戸時代後期	東京国立博物館	
140		湖東焼 染付鳥図片口鉢	1口		江戸時代後期	個人	
141		湖東焼 染付水禽図片口鉢	1口		江戸時代後期	個人	
142		湖東焼 御深井写笹図徳利	1対		江戸時代後期	個人	
143		湖東焼 染付土筆文水指	1口		江戸時代後期	個人	
144		湖東焼 兎形屏風止め	1対		江戸時代後期	個人	
IV 藩窯の終焉と近代の幕開け							
1 藩窯の終焉							
145		桜田事変絵巻	2巻のうち1巻(上巻)		明治時代	当館	
146		陶器片(湖東焼窯跡採集品)	一括		江戸時代後期 ～明治時代前期	当館	
2 復興と模倣							
円山湖東焼と長浜湖東焼							
147		円山湖東焼 染付祥瑞写茶心壺	1合		明治2年(1869)	滋賀県立陶芸の森	
148		円山湖東焼 染付笹文小皿	5口		明治時代初期	滋賀県立陶芸の森	
149		円山湖東焼 染付文字文煎茶碗	1口		明治時代初期	当館(個人寄贈資料)	前期(10/23～11/6)のみ展示
150		円山湖東焼 蓮文刻急須	1合		明治時代初期	当館(井伊家伝来資料・関東大震災罹災品)	後期(11/7～11/23)のみ展示
151		円山湖東焼 染付山水図筆筒	1口	明石屋初太郎 作	明治時代初期	個人	
152		長浜湖東焼 赤絵金銀彩唐子雪玉図徳利	1口		文久元年(1861)	長浜市長浜城歴史博物館	
153		長浜湖東焼 染付梅牡丹文輪花形向付	5口		明治時代初期	長浜市長浜城歴史博物館	
154		長浜湖東焼 染付牡丹文急須	1合		明治時代初期	個人	
155		長浜湖東焼 赤絵金彩獅子に牡丹文盃洗	1口		明治時代初期	個人	
156		長浜湖東焼 赤絵金彩牡丹菊文酒盃	1口		明治時代初期	長浜市長浜城歴史博物館	
湖東焼に倣う							
157		九谷焼 赤絵金彩菊図鉢	1口	中村秋塘 作	大正時代 ～昭和時代初期	個人	
158		京焼 色絵獅子摘香炉	1合	三浦竹泉 作	大正時代後期 ～昭和時代初期	個人	
159		京焼 色絵夕顔図瓢形風炉	1基	三浦竹泉 作	大正時代後期 ～昭和時代初期	個人	
160		京焼 赤絵金彩菊文鉢	1口	三浦竹泉 作	大正時代後期 ～昭和時代初期	個人	後期(11/7～11/23)のみ展示
161		赤絵金彩牡丹唐草文花生	1口		明治時代 ～大正時代	愛知県陶磁美術館	
3 近代における顕彰 ～研究と収集～							
162	□	「湖東焼之研究」(手記稿本)	一括	北村寿四郎 著	大正時代	栗東歴史民俗博物館	

NO.	指定 作品名称	数量	制作者	制作年	所蔵者	備考
163	「湖東土焼の歴史」	1冊	北村寿四郎 著	明治時代末期 ～大正時代初期	個人(三居孫太夫家文書)	
164	石香軒蔵品展覧図録	1冊		昭和11年(1936)	個人	
165	湖東焼 織部写香合	1合		江戸時代後期	個人	
4 湖東焼から京焼へ						
166	京焼 色絵四季草花図食器	12種一式	幹山伝七 作	明治時代	宮内庁三の丸尚蔵館	
167	京焼 染付仙人図コーヒーカップ・ソーサー	12揃の内	幹山伝七 作	明治時代	個人	後期(11/7~11/23)のみ展示
168	京焼 柿に遊禽図花生	1口	幹山伝七 作	明治時代	個人	前期(10/23~11/6)のみ展示

写真解説

1 湖東焼 染付松に鶴図 盃 2口 (作品リストNO.6)

文政13年(1830)

(大) 口径9.6 底径3.7 高3.3

(小) 口径8.8 底径3.2 高2.9

個人蔵

揃いの意匠の大小盃。模様の色はやや鈍いものの、薄作りの整った器形で素地は白く滑らかです。高台には、「沢山初製」という銘が記されています。

沢山とは、現在、「佐和山」と称される彦根の北東部に位置する山のことで、湖東焼を創始した絹屋半兵衛らがこの麓に文政13年(1830)に窯を築きました。同じく銘に「初製」とあるため、本作は、佐和山の窯において制作された記念すべき最初の作品であることが分かります。絹屋時代の湖東焼は数点しか確認されておらず、貴重な作品です。



2 湖東焼 染付牧童図大皿 1枚 (作品リストNO.50)

口径45.6cm

江戸時代後期

個人蔵

鮮やかな藍色で模様を表した大皿。高度な技術を要する大きな形や模様表現の見事さから、優品が多く作られた藩窯期の作品と判断されます。

見込み中央には今にも動き出さんばかりに勢いのある姿で牛が配され、その背と足下に愛らしい童子の姿が描かれています。この絵は、呉須こすという藍色に発色する釉薬を用いた「染付」と呼ばれる技法そめつけで表されています。湖東焼では染付の作品が多く制作されました。



3 湖東焼 赤絵金彩芦雁図水指 1合【関東大震災罹災品】 (作品リストNO.52)

鳴鳳作

高15.0cm 口径14.5cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

茶の湯の道具で、茶碗を清めたりするための水を入れておく水指という器。湖東焼きつての名絵付師として知られる鳴鳳の作品です。

絵付師とは、器の表面に絵を描くことを専門とする職人です。成型や焼成などの他の工程を担当する職人に比べて、作品のイメージを決定しうるより重要な存在とされ、しばしば、その名を作品に記すことが許されました。鳴鳳もそのような絵付師の一人です。彼は、井伊家12代直亮(1794~1850)の代にあたる弘化年間(1845~48)に彦根藩窯に迎えられ、安政初年(1855)頃に去ったと考えられます。藩主の好みものや贈答品などの高級品の制作に携わり、優品を



残しました。

本作は、金を贅沢に用いて、月下に舞い降りる雁と、風に揺れる芦を描き出しています。関東大震災による罹災により、全体に黒ずみが見られますが、モチーフを大きく配する大胆な構図を取りながら細部は緻密に描き込むという抑揚の効いた巧みな表現をとっており、技倆の高さが感じられます。

4 湖東焼 赤絵金彩柳翡翠図建水 1口【関東大震災罹災品】 (作品リストNO.53)

鳴鳳作

高6.8cm 口径14.2cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来資料)

茶の湯の道具で、使った水を捨てる際に用いる器です。胴部には、水面を見つめる翡翠と柳が描き出されています。金を多用する手法や口縁部分の鱗文様などが、芦雁図水指(作

品52)と共通しており、もとは水指と揃いであつらえられ、蓋置や杓立などの他の茶道具と共に、皆具という揃い物の一部をなしていたと考えられます。水指と同様に、関東大震災で罹災したため全体に黒ずみがありますが、洗練された構図と細かな描写が映える優品です。



5 湖東焼 織部写夕顔図瓢形風炉 1基 (作品リストNO.96)

高20.3cm 口径27.2cm 胴径33.4cm

江戸時代後期

個人蔵

湖東焼の陶製の風炉。瓢箪形の器胎に夕顔の図を表し、脚部も瓢箪形としています。このデザインを指示する井伊家13代直弼(1815~60)自筆の下図があったことが知られ、全く同じ手の作品がこの他に数点現存していることから、本作は、直弼の注文により複数制作されたものの一つと考えられます。瓢箪や夕顔は、千利休が、侘茶の精神に適うとして愛した植物です。直弼は敬愛する利休に倣い、これらの意匠を、さまざまな茶道具に用いています。



6 湖東焼 青磁牡丹文耳付花生 1口 (作品リストNO.102)

口径9.2cm 胴径16.2cm 底径9.6cm 高28.7cm

江戸時代後期

個人蔵

緑味の強い釉を厚く全面にかけた青磁の花生。胴には、牡丹唐草文や幾何学文を浅く簡略に線刻しています。青磁は、全面を青緑色で彩った磁器で、中国ではすでに紀元前には作られていました。湖東焼では、中国の青磁を範とした青磁の制作も行われました。

本作の底部には「湖東」字の押印があります。伝えでは、この印は、井伊家13代直弼の代の安政3年(1856)以降に用いられるようになったとされています。直弼の時代の湖東焼は、よりいっそう均整のとれた器形、青味を廃した白い素地、鮮明な絵付などの均一な質の高さが追究され、まさに、本作はそのような作域を示していると考えられます。



7 湖東焼 赤絵金彩四方形唐人物花鳥図火鉢 1口 (作品リストNO.123)

自然齋作

胴最大幅22.3cm 高19.4cm

江戸時代後期

当館蔵 (河本英典氏寄贈資料)

自然齋(1821~77)は、湖東焼の絵付師としてよく知られた人物です。中山道鳥居本宿の自宅で旅館を営むかたわら、原村の床山や高宮村の赤水、白壁町の賢友と株仲間を結成し、彦根藩の許可を得て藩窯から白素地を仕入れ、絵付を行いました。

本作は、丸みを帯びた四方形の胴に耳を付け、赤絵金彩の技法で唐人物図や花鳥図の絵付を施した火鉢。口縁や脚などにも青海波文や龍文、花七宝文などを細密に描き込み、華やかに仕上げた作品です。胴に、「琵琶湖／自然齋陶」という銘が入れています。



8 有田焼 染付網目文大皿 1枚 (作品リストNO.3)

江戸時代後期

口径40.8cm

東京国立博物館蔵 (平野耕輔氏寄贈)

裏表を網目文で覆い尽くした有田焼の大皿。江戸時代初期、現在の佐賀県有田地方を中心とする地域で、日本で初めて硬く焼き締まった磁器の生産が始まり、江戸時代中期には、磁器の一大生産地に成長しました。本作の歪みのない整った形は、他の追随を許さない有田焼の磁器制作技術の高さを示しています。

絹屋半兵衛らが湖東焼を創始するにあたっては、有田の職人が招聘されたと伝えられ、窯場の発掘調査で出土した窯道具の中にも、有田焼特有の道具が確認されます。湖東焼制作において、有田焼の技術は重要な役割を果たしたと考えられます。



9 瀬戸焼 古染付写雲鶴文手桶形水指 1口 (作品リストNO.22)

川本治兵衛 (3代) 作

江戸時代後期

高25.0cm

愛知県陶磁美術館蔵

藩窯時代、湖東焼の窯には瀬戸焼の陶工が多く招聘され、技術を伝えました。特に、瀬戸の陶工川本治兵衛 (3代) (?~1866) の高弟が、藩窯の職人頭として活躍したことが知られています。

川本治兵衛 (3代) は、中国磁器の写しに優れ、本作は、その代表作とされるものです。虫喰いと呼ばれる釉薬の剥がれ、文様の描法や染付の色調、底部の削り方など、古染付の特徴を忠実に再現しています。



治兵衛は、尾張藩の御用をつとめる御焼物師の役を拝命し、瀬戸焼の磁器の技術発明や改良を多く行った先鋭的な技術者として知られています。彼の弟子を介し、その技術が湖東焼に取り入れられたと考えられるのです。

10 ことうやき あか え きんさいちようどうりよう ずぼち
湖東焼 赤絵金彩 張道陵 図鉢 1口 (作品リストNO. 38)

きざきぼくじゆう せき すい
木崎ト什・赤水 合作

江戸時代後期

口径26.7cm 底径16.2cm 高6.1cm

個人蔵

中国の伝説的な道士、張道陵の姿を見込に大きく描いた鉢。見込に「法橋ト什写」、底部に「湖東 赤水造」の銘があり、九谷焼の絵付師木崎ト什（1810～54）と、湖東焼の民窯赤絵の絵付師赤水（生没年不詳）の合作と判断されます。

赤と金で絵付を行う赤絵金彩の技法は、湖東焼では染付に次いで多く見られるものです。極めて近い様式による絵付作品が、湖東焼に先行して九谷焼で制作されていることから、九谷焼の影響下でこのような作品が作られたと考えられてきました。

本作はそれを裏付けるもので、九谷焼と湖東焼の絵付師の直接的な関わりを示す具体例としても注目されます。

